

2014年度（平成26年度）事業報告書

（自：2013年10月1日、至：2014年9月30日）

事業報告概要

気仙沼を中心とした宮城県北岩手県南三陸沿岸地域におけるヘリコプターの運航を昨年10月に開始した。緊急要請に応えるため、常に出動体制をとっている。各地への臨時ヘリポートの確保などのハード面とまた、救急患者搬送のための医療用多目的ヘリコプターの運航、及び大規模災害時の緊急出動を念頭に、近隣の自治体や医療機関等と連携体制構築のための調整業務を行った。緊急要請に応えるためのヘリコプターを使用した組織内訓練のみならず、関連機関と共同での模擬搬送訓練や、自治体との防災訓練も合わせて実施した。

事業報告詳細

1. ヘリコプター運航のための環境整備

ヘリコプターの柔軟な離発着環境を確保するため、昨年度確保した気仙沼市内3ヶ所、一関市内1ヶ所に加え、気仙沼市内に更に3ヶ所、一関市内に更に6ヶ所、石巻市内3ヶ所、南三陸町内3ヶ所、女川町内（離島部を含む）3ヶ所、岩手県奥州市1ヶ所の場外離着陸場の許可を受けた。沿岸被災地においては、ヘリコプターの離発着場所確保は喫緊の課題であったが、昨年度よりも更に多くの個所を確保ができたことは、大きな成果と言える。

2. 医療用多目的ヘリコプターの運航

患者搬送のための調整業務を行った。公的な医療機関を中心とし、特定の医療法人に属さないヘリコプターの運航は全国的にも初めてであるが、関係機関の協力を得ながら積極的かつ辛抱強く調整してきたことで、今年度は7件の患者搬送を実施した。うち1件は急性期脳梗塞の患者で、治療のスピードが予後を左右する状況であったが、ARHのヘリコプターで迅速に搬送ができ、現在はお元気に日常生活を送られているそうである。また、医師の不在時間を短縮する為の医師搬送も2回実施しており、医療用多目的ヘリコプターとしての柔軟な運用を行っている。岩手県内での活動も考慮し、岩手県内の民間医療機関とも協定を締結。今後、更なる医療機関との連携を調整していく。なお、このような案件に即座に対応できるよう、13回の医療搬送訓練も実施した。

3. 災害時における緊急出動のための体制構築

ヘリコプターを災害時に活用すべく、気仙沼市や南三陸町と災害時対応等に関する協定に基づき、訓練を実施した。また、民間ヘリコプター広域活用推進協会として一関市とも連携し、県境にとらわれない活動を行っている2014年8月には一関市室根町自治会連合会主催の訓練に参加し、地域住民と連携した活動も行うことができた。三陸沿岸地域では、2011年の東日本大震災で大きな被害を受けたが、同地域は津波常襲地帯でもあるため、将来の災害に備える必要がある。上記市町村のみならず、陸前高田市とも災害時対応に関する協議を行っている。なお、災害に対応する訓練として

11回実施している。

また、多目的な活用として、海難事故の捜索等にもヘリコプターを活用すべく、宮城県漁業協同組合と協定を締結した。これに伴い、海上保安庁との連携も協議・調整している。

4. 広報・調達活動

ホームページとともに、Facebook を活用した積極的な情報発信を行った。また、今年度はヘリコプター以外の事業も試験的に行い、その様子がメディアにも取り上げられている。それに加え、「大島つばきマラソン」「室根夏祭り」「本吉マンボウサンバ」など、地域のイベントに積極的に参加し、救護活動を行う傍ら、団体のPRも実施し、地域におけるARHをより多くの方に知っていただくことができた。視察や展示などに63回の飛行を行った。

資金面においては、公益社団法人 Civic Force や特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン等から支援を受けつつ、長期的な事業継続性を確保するため、複数のインターネット募金サイトへの登録や、企業スポンサーの募集などの調達活動も実施した。また、飲食店等に募金箱を設置していただき、ご協力をいただいている。

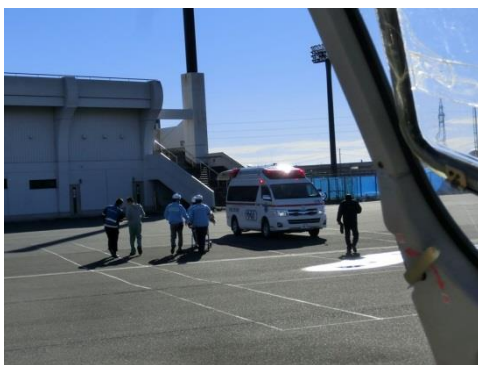
参考写真



(奥州市の医療機関に着陸している様子)



(患者搬送模擬訓練)



(石巻市内へ緊急搬送した様子)



(子ども向けイベントに参加)